

## ◆ 新年のごあいさつ

平成31年 元旦

日本剪画協会 会長 石田良介

新年明けましてお目出度ご御座います。  
本年もまた、希望に満ちた平和な年であります様お祈りします。

この処、美術を取り巻く環境が、大きく変わる状況を来たしております。

特にTVの映像でBS4K、8Kなどで立体映像に目を見張ってしまいました。人間の視覚にほぼ近い遠近、立体、空間感覚まで平面のTV画面で映像化されました。

更に、香りや触覚など、人間の五感まで感じる領域に、踏み込むのではないでしょか。

中国では、遺伝子操作で人間の子供を誕生させたと、大きなニュースが世界中に流れました。真実のほどは現時点では不明です。

化学は、人間の叡智を計り知れない領域に踏み込ませ、更に、予想できない世界に発展していくと思われてなりません。

芸術、美術の世界でも人工知脳(AI)によって、希望するビッグアーティストの画面を合成し、デフォルメさせて即座にオリジナル風の作品が制作できる状況にあります。

しかし、人間の持っている優れた感覚を、繊細な指先を使って絵画に表現する剪画は、これからも大切に守り続けていきたいと思えます。

新年にあたり、剪画を取り巻く美術環境をお伝えしましたが、本年も「第35回日本剪画美術展」を6月に大崎のO美術館で開催予定です。

会員各位の意欲的な作品のご応募を期待して居ります。



会員の作品「猪突猛進風」